

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

令和5年度農作物病虫害発生予察情報について

令和5年度農作物病虫害発生予報第9号を発表したので送付します。

令和5年度農作物病虫害発生予報第9号

令和5年9月4日  
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が29.4%と、平年(17.7%)に比べてやや高いが、発病穂率は0.3%と、平年(0.2%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が64.7%、発病度が3.5と、平年(69.8%、5.9)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が19.8%、株当たり寄生虫数が0.18頭)。

(2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場における発生状況を早期に確認し、1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う。

- (2) 本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合であっても、降雨の合間に薬剤防除を行う。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の水田における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、17地点のうち4地点で生息を確認した。捕獲地点率が23.5%と、平年(45.3%)に比べてやや低く、地点当たりの捕獲虫数は2.1頭と、平年(1.6頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。
- (2) 出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。
- (3) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (4) 薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

## II. 果樹

### カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.7%、発病果率が0.0%)。
- (2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査でも、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (3) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 9～11月の降雨は果実の被害を助長するため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

フジコナカイガラムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、寄生果率が3.2%と、平年(56.7%、3.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 密度の高い園では、2回以上の防除が必要である。

### 果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月の予察灯調査において、勝浦町での誘殺数は、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシとも

に、平年に比べて少なく推移している。一方上板町では、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに、平年に比べてやや少なく推移している(表1)。

(2) 8月第5・6半旬のカキにおける巡回調査では、被害果を認めていない(平年同時期では、発生圃場率が10.3%、被害果率が0.2%)。

(3) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 [勝浦町および上板町における各カメムシの誘殺数]

[ツヤアオカメムシの誘殺数]								[チャバネアオカメムシの誘殺数]							
月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年			2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
8	1	9	9	137	0	13	7	8	1	0	480	98	8	131	16
	2	46	9	125	7	7	14		2	8	266	131	28	78	30
	3	2	4	161	7	9	22		3	22	385	143	19	92	50
	4	65	3	139	5	20	21		4	66	337	175	28	123	51
	5	60	5	87	5	7	17		5	86	244	175	29	57	53
	6		5	85		12	23		6		209	210		19	60
9	1		3	53		16	17	9	1		203	113		54	57
	2		10	77		0	17		2		142	184		16	42

III. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%、発病葉率が4.4%と、平年(53.6%、5.4%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、1葉当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(27.1%、0.0頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%、寄生葉率が1.8%と、平年(34.0%、2.4%)並の発生である。
  - (2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
  - (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
  - (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

#### アザミウマ類

- 1) 予報内容  
発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が45.1%、寄生葉率が1.4%)。また、被害果実についても、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が27.3%、被害果率が2.9%)。
  - (2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

#### 秋冬ネギ

##### ネギアザミウマ

- 1) 予報内容  
発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 8月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、被害度が1.5と、平年(43.3%、1.8)並の発生である。
  - (2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

##### シロイチモジヨトウ

- 1) 予報内容  
発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 8月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生株率が2.0%と、平年(63.9%、5.7%)に比べてやや低い。
  - (2) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。
  - (2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。
  - (3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
  - (4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

##### ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容  
発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 8月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、被害度が0.1と、平年(70.0%、8.4)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

## 冬春イチゴ（育苗期）

### 炭そ病

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、発病株率が3.3%と、平年(12.6%、0.8%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)台風の通過が予想される場合は、予めネットで苗を覆うなど物理的な傷みを防ぎ、通過後は必ず薬剤で予防しておく。

### ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生株率が3.0%と、平年(37.7%、5.8%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## 野菜共通

### ハスモンヨトウ

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、8月第3半旬まで平年並に推移していたが、第4半旬以降、平年に比べてやや少なく推移している(図1)。

(2)高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

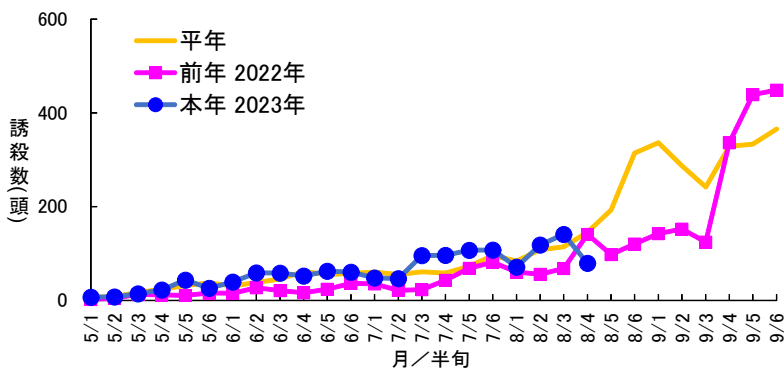


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)  
\* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

### シロイチモジヨトウ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、8月第2半旬は平年よりやや多い誘殺数であったが、それ以外の期間はほぼ平年並で推移している(図2)。
- (2) 8月第5半旬の秋冬ネギにおける巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生株率が2.0%と、平年(63.9%、5.7%)に比べてやや低い発生である。
- (3) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

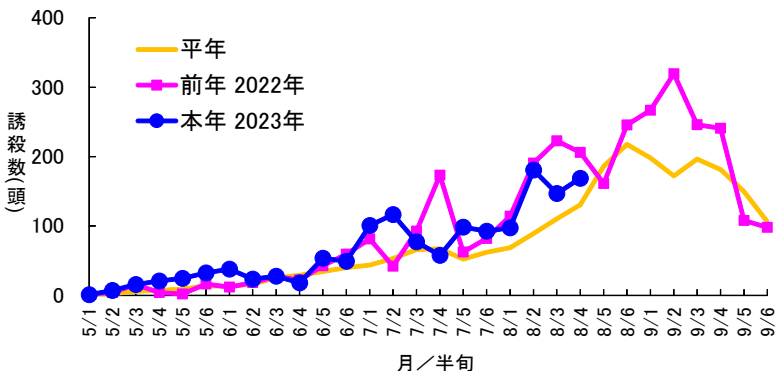


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)  
\* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の7地点平均

### オオタバコガ

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、8月第1半旬は平年より少なかったが、第2半旬以降はほぼ平年並に推移している(図1)。
- (2) 8月第5・6半旬の夏秋ナスにおける巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が30.3%、100葉当たりの産下卵率が0.4%)。なお、幼虫による被害果実の発生圃場率が12.5%と、平年(7.0%)に比べてやや高く、被害果率は0.5%と、平年(0.1%)に比べて高い。
- (3) 高松地方気象台が8月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

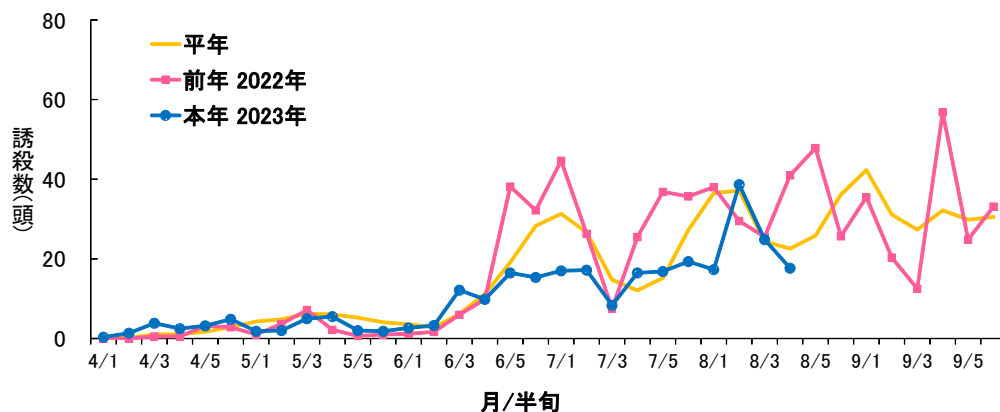


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移  
\*阿波市,三好市,東みよし町,石井町の6地点平均

#### IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

#### 発生量の表示

発生程度：甚＞多＞中＞少＞無

発生量：多い＞やや多い＞並＞やや少ない＞少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。